

有識者会議での発言主旨案

令和4年9月30日

QST 池田佳隆

- ・研究開発機関の担当者として、このような会議が開催され、また参加できることに感謝申し上げます。
- ・ITER 本体の組立が始まり、世界の核融合研究開発が ITER の次の核融合発電を目指す原型炉の動きが活発となってきたと感じております。
- ・実は、先週、核融合技術に関する最大の国際会議である SOFT という会議(参加登録者 926 名)に参加しましたが、原型炉に向けた発表が非常に多くなっていました。特に中国からは、原型炉の工学技術開発を行う CRAFT という組織を 2019 年に立上げており、そこで開発した国内技術で、ITER と並行して BEST という実験装置を建設するとともに、ITER が核燃焼を始まる頃に CFETR という原型炉の運転を目指すという最新計画が紹介されており、原型炉に向け競争段階に入ったことを強く感じたところです。
- ・私ども QST は、これまで JT-60 での世界最高温度の達成や、ITER 計画での主要機器の開発政策、そして日欧の BA 活動を活用して原型炉に必要な要素技術開発を進めてきましたが、この世界の動きを考えると、国家戦略のもと原型炉に向け、QST だけでなく産業界を含む多くの方に参画を頂き、今後も我が国が世界の核融合をリードしていきたいと思っております。
- ・そのためには、既に勉強会で議論された「核融合発電の実証時期」を明確に示し、それに必要な「核融合技術の開発戦略」のロードマップとそれを実施する「今後の核融合の推進体制」を提示して頂くことが重要と思っております。そして、そのためにも「核融合産業の育成」というか、産業界が核融合に参画する魅力を示す必要があると思っております。
- ・そして、私自身は、開発に長期間を要する核融合開発においては、「核融合人材の育成」が最も重要と思っており、「推進体制」の議論を踏まえ、どんな分野、どんな方を、どのように育成・確保するかを次の世代に提示できればと思っております。
- ・そういった点で、私としては、今後の国家戦略の策定に向けて、これまで勉強会で議論された論点で抜けはなく、これまでの議論を基に有識者会議で各項目を確り議論して頂きたいと思っております。

以上